

ふるさとを肌で感じて

三沢の区民農園事業で つつじが丘の子ら田植え

農と人とくらし研究
センターなど協働

三沢区は二十九日、高尾山ろくの明王の堤下にある棚田で田植えを行った。〇八年に開始した区民農園事業の一環で、区内の児童養



楽しみながら苗を植える子どもたち

護施設「つつじが丘学園」の入所児にふるさと
との思い出を残そう—
という取り組み。同区
に拠点を置くNPO法人・
農と人とくらし研

究センターと同農園関係者、同区育成会の協働で、子どもたちとともに米作りに取り組んでいく。
事業は、JT日本た

ばこ産業が青少年育成を目的に選定する「NPO助成事業」から百五十万円を受けて行う。各地からさまざまな理由で施設に集まった子どもたちが、「大人になったとき、ここに住んでいたんだと思いたい出せるように」との願いで始まった。

作業には同学園の入所児八人と区内の小学生、農園関係者ら合わせて約四十人が参加。休耕地を耕してことし新しく作った十五畝ほどの水田に、ゆめしなののわせ種を手植えした。子どもたちは体を泥だらけにしなが

いを楽しんだ様子。今後も地域住民とともに雑草の除去、稲刈り、脱穀と米作りを一通り体験し、十一月の収穫祭で味わう。同祭では入所児の感想発表を行い、記録集にまとめる予定。

農と人とくらし研究センターの片倉和人代表は「米作りという大変な体験を通して、子ども時代を過ごした三沢区が忘れがたいふるさとになれば」と期待していた。